

一往直前

新年にあたり あいさつを今一度考えよう



今日は学調テストお疲れさまでした。自分の実力は出し切れましたか？

さて、1学年は、学年目標として、『一往直前』（何があってもおそれず、目の前に素直にひたむきに努力すること）を掲げてきましたが、新年になって新型コロナウイルスは収まるどころか首都圏を中心に緊急事態宣言が出されるぐらいの増加をみせている状況ですし、例年でも寒い時期で、風邪やインフルエンザが流行する頃なので、いずれにしても、今年も三密をさげ、マスクをし、換気や手洗い、うがいをし、病気にならないようにひたむきに取り組んでいくことが求められる1年になりそうです。大変な日々がまだまだ続きますが、なんとなくこの状況に慣れて、驚くこともなくなってきた意識を今一度もっていきたいですね。

また、凡事徹底（特にあいさつ）、挑戦、仲良く協力という3つの重点を掲げてきました。この中であいさつについては、年度当初よりだいぶ良くなっていると思います。朝昇降口でこちらがあいさつしてもできていない人はほとんどいません。でも、これは当たり前のことです。当たり前のことを徹底するために、3学期はさらに高いレベルを要求していきたいです。それは、**相手があいさつをする前にあいさつをすること**です。これはなかなか難しいことで、相手のことをよく見てタイミングを計らなければいけないし、常にあいさつするのだと意識していないとできないことです。朝の様子だと、まだ1割程度できているかどうかというところですよ。最終的には、3年になるころには皆さんには、警周一と呼ばれるぐらいのあいさつの達人を目指してほしいので、この3学期に半分以上の人ができるようになるといいですね。このような話を3学期の始業式に皆さんにお話ししましたが、その後数日間朝の昇降口で意図的に、私から先にあいさつをせず、皆さんの側からあいさつできるかを待ってみました。こちらが思っている以上に8割方の生徒がちゃんとできていました。始業式で話した内容をちゃんと受け止めてくれたと嬉しく思います。

嬉しいと言えば、年末にこのような新聞記事（右写真）を見ました。志インタビューで講師としてお見えになった、豊田中OBでもある市川勝己さんが、志インタビューのことについて投稿されたものです。この文面の中に「恩返しのためにみんなを笑顔にするために働く、とても素敵なことだと思いました」という1年生の生徒のメッセージがありました。1年生が志で学んだこと、それに対するお礼の思いが講師の方々に伝わっているんだということがとてもうれしいなと感じました。あいさつも同じことだと思います。豊田中の生徒の皆さんは、このように地域に育てていただいている存在なのです。その思いを短い時間できちんと表現できるのがあいさつと言えますね。

理容一筋65年「志」伝える

市川 勝己 理容師
(磐田市) 80歳
母校である中学校で一年生が「志とは何か」を学ぶ催しに今年も参加した。「志インタビュー」と題され、地元の家社関係者や個人経営者ら二十二人が子供たちと話し合った。中学を卒業して以来六十

五年間、理容の道一筋である。 「今も元気で仕事ができるのは、お客さまが『ああ気持ち良かった。ありがとう』と喜んでくれるからだよ」「仕事には自分の好きなこと、得意なことを選ぶと良いと思うよ」「人に喜んでもらい世の中のために

なることが大切だよ」と話した。 後日にお礼のメッセージを伝えてくれた。「恩返しのためにみんなを笑顔にするために働く、とても素敵なことだと思いました」とあった。 少しは理解されたと、うれしくなった。地域の子供を育てる、これも仕事のひとつである。

